

# みどりアップQ

緑 × まち × 未来を考えよう



## Qみどりの見学ツアーで 気づいたことは？

横浜みどりアップ計画について、もっと多くの市民の人に  
知って頂き、意見を伺うため、  
「みどりアップを見に行こうツアー」を開催しました。  
これからの横浜のみどりを守り、つくるために  
みんなで感じたことをレポートします。

## 「横浜みどりアップ計画」について考えました

中面でご紹介した「みどりアップを見に行こうツアー」の締めくくりに、参加者で意見を交わしました。

### みどり税があることを今まで知らなかった

地域緑のまちづくり事業を全部みどり  
税でまかなうのは出しすぎでないか

身近なところで  
地域の人たちが  
協力しながら活  
動していること  
がわかった

みどり税やみどりアップ計画で  
行っている場所をもっと子供たちの  
教育に使えたら良い

みどりアップ計画の  
内容について、まだ  
知らないことが多い

みどりアップ計画は  
植樹をするイメージ  
だったが、樹林地や  
農地を守るなど様々  
なことが行われている

みどり税の効果が  
どれくらいあった  
のか、わかりやす  
くしてほしい



意見交換会の様子

広報活動を通してみどり税  
の必要性を伝えたり、イベ  
ントでプランターづくり等  
の体験をしたりすると良い

樹林地や農地は  
一度減少したら  
取り戻せないと思  
う

緑はなくてはならないと思  
うので、みどりアップ計画  
はあってほしい

もっと子供たちに知ってもらうため  
に、市の職員や実際に活動している人  
に教育現場でも話してもらいたい

事業によっては実施する  
までの行程が大変そう

### 市民推進会議委員からのコメント

横浜みどりアップ計画の事業というのは、税金を使っているということで、「なぜ市民が負担してこ  
こまでやらなければいけないのか」と思う人がいるかもしれません。皆さんに税を負担していただいで  
るので、もっとそれらの事業の効果を身近に感じられるようにする必要があります。

池邊このみ委員(千葉大学大学院 園芸学研究所 教授)



### 取材を終えて感じたこと

横浜みどりアップ計画は、全国でも先駆的な制度だと思います。しかし、横浜の森や農地や生き物を守っていくことは、個人だけでも  
市だけでも難しいと思います。そのためには、強い志を持ったリーダー、多くのボランティアと、活動の継続が必要です。さらに、今回のツアー  
に参加してみて、緑が人々の仲立ちというか、コミュニティ形成のためにも役に立っているのではないかと感じました。緑を守ることは、現  
代の問題を解決することにもつながるのかもしれない。

### 横浜みどりアップ計画とは？

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を  
守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり  
税」を活用しています(個人市民税均等割に年間900円、法人  
市民税に均等割の9%相当額を上乗せ)。計画書は、環境創造  
局ホームページ、区役所広報相談係や市庁舎1階市民情報セ  
ンター、環境創造局政策課で閲覧できます。

環境創造局ホームページ  
http://www.city.yokohama.lg.jp/  
kankyo/midoriup/



### 横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは？

横浜みどりアップ計画について評価、提案、  
市民への情報提供をする、市民参加の組織  
です。

市民推進会議



### みどりアップQとは？

みどりアップQの「Q」は「みどりアップをも  
っと知る、なぜなに?(クエスチョン)」と、「緑の  
ある暮らしの質(クオリティー)を考える」。市  
民目線でみどりアップ計画を探っていく市民  
推進会議のレポートです。

# 横浜の緑を見てほしい、知ってほしい

## みどりアップを見に行こうツアーを開催しました

横浜の緑のある環境は、現場で実際に携わっている人たちに支えられています。その方々の声を直接聞き、みどりアップ計画やみどり税がどう役に立っているのか、また、課題になっていることはなにかを考える「みどりアップを見に行こうツアー」。青葉区で、緑のまちづくり、森づくり、水田の保全に携わる人々を市民推進会議の委員と、公募の市民の方々とで訪れました。

取材 東 みちよ 委員 大竹 斎子 委員



ツアーメモ 平成28年9月17日(土) 晴れ  
 参加者：小学生から70代の方までの市民21名と、横浜みどりアップ計画市民推進会議委員10名  
 訪問先：青葉区 ①柿の木台(地域緑のまちづくり) ②もえぎ野ふれあいの樹林(樹林の維持管理) ③恩田町(水田の保全)

### 地域緑のまちづくり×柿の木台「やもと農塾」

～まちへの思いが緑化・地域の輪へ～

柿の木台地区では、地域と市が協力して、まちにふさわしい緑を創出する「地域緑のまちづくり」が行われています。

散歩途中にほっとひと息。緑のまちづくり推進団体として活動するやもと農塾の手作りのお花箱(木製プランター)は、まちの緑化だけでなく地域交流にも役立っています。

「土づくりは、ひとづくり、まちづくり。」そんなテーマのもと2年前か



手作りのお花箱に座って、説明を聞きました

ら活動しています。この地区は坂道が多く、高齢化も進んでいます。花のあるお花箱を置くことで、休憩だけでなくコミュニケーションの場としても親しんで頂けたら」と、やもと農塾代表の工藤さん。

保育園前にお花箱を設置したところ、保育園で水当番や花当番を決め、園児たちが花を育ててくれるようになりました。また、郵便局前のお花箱はまちの人たちのコミュニケーションの場になるなど、地域の輪が育っています。

柿の木台地区に住んでいる全ての人にとって、良い地域、良いまちにしたいという強い思いが、ただ緑化をするだけではない、地域の輪づくりにつながっているようです。



やもと農塾代表の工藤さん

お花箱が増えていくと  
 まちなかの統一感も出ていいなと思いました(20代)

ここにみどり税 地域緑のまちづくりの費用(整備費・維持管理費・活動費)

### 保全管理計画に基づく森づくり

#### ×もえぎ野「もえぎ野ふれあいの樹林愛護会」

～地元の力が森を豊かに～

もえぎ野のふれあいの樹林は、平成5年に市の「ふれあいの樹林」の指定を受け、平成10年から一般に公開されました。それを機に、地元の仲間による、「もえぎ野ふれあいの樹林愛護会」の森づくりの活動がスタート。日々の丁寧な樹林管理作業により、多様な植物が見られるようになりました。

2、3年前からは、市と協力しながら、この森はどんな森であつたら良いのだろうと、皆で話し合っ、もえぎ野ふれあいの樹林保全管理計画を作成。この計画に基づき、繁



説明を聞きながら熱心に記録する参加者の皆さん

### 水田の保全×恩田町「じじ池水利組合」

～受け継がれた意思が守る力に～

横浜には、谷戸とよばれる浅い谷地形が多くみられ、かつては水田として使われていました。恩田町には、そんな原風景ともいえるような谷戸田があります。谷戸田は森に囲まれているため、場所によっては日陰ができ、地温や水温が上がらず、水はけが悪く、稲の生育に影響が出たり、大きな機械が入れなかったりと、人手がかかる割には、収穫が少ないなどの課題が多くあるそうです。

それでもこの水田には、多くの生き物が住み、多くの植物が自生し、秋には黄金色の稲穂が人々の心を和ませてくれます。

お話を伺った、地域の農業用水や農道などを共同で、利用・維持管理している「じじ池水利組合」の中山さんは、4年前からお父さんの仕事を受け継ぎ、稲作を始めました。「いろいろと手間のかかる田んぼだけど、ここにはきれいな井戸水、谷戸の自然があります。代々受け継がれてきたこの自然を守るためにも、頑張りたいですね」と語ってくれました。

米を作るだけでなく、多くの環境機能を持つ水田を守るためには、昔からの自然を次世代に残したいという農家の方々の気持ちが大切(∨)

田んぼのあぜ道は  
 なんでかたいの？



土を盛って足で踏みならすことでかたくなっているよ。モグラが穴を開けるので、時々踏み直さないといけないんだよ。

稲穂が実る谷戸田

(∨) なのだと感じました。

そこに暮らす人の努力によって、この環境は守られます。失ってはならない横浜の宝です。



じじ池水利組合の中山さん

遠くから見ると稲が光っているように見えて  
 きれいだった(7歳)

ここにみどり税 水田の保全に対する奨励金

茂っていた竹林の一部を伐採しました。森全体が明るくなり、近所の方々が気軽に安心して散歩することができる、気持ちの良い森に生まれ変わりました。今後の動植物の変化も楽しみです。

愛護会では、維持管理活動が活発に行われています。みどり税があることで、まちの中の樹林を守るための維持管理がしやすくなったということですが、市街地に残された希少な樹林地を残すため、関心を持った人が気軽に愛護会に参加できるようなオープンな雰囲気があることも、とても重要なのだと感じました。

緑があふれていて、まちの人の  
 憩いの場になると感じました(40代)

ここにみどり税 森ごとの保全管理計画づくり、木の伐採や草刈りなどの森の維持管理費



もえぎ野ふれあいの樹林愛護会の大熊さん、柴崎さん、松田さん(左から)